学苑　No. 845　(122)～(131)（2011・3）

モンゴル語の近代語彙と辞書（一）

――海山編訳『蒙漢合璧五方元音』(1917)[1]――

フフバートル

はじめに

20 世紀にいたるまで数多くのモンゴル語辞書や語彙集が出された。その中にはモンゴル語への関心やモンゴル語を知る必要により，外国人などモンゴル語を母語としない人たちが編纂したものも多く含まれている。それに対し，外国語とモンゴル語との対訳辞書は少なかった。とりわけ，西洋諸言語や日本語と中国語など，モンゴルより近代化が進んだ国家や民族の言語からモンゴル語に翻訳された辞書の出現は，1910 年代を待たなければならなかった。このたぐいの辞書は主としてモンゴル人が外国語を利用する必要から作られ，実際，モンゴル人によって編纂されたものがほとんどだった。その例として，まず，ブリヤート・モンゴル人である R. Bimbaevi の*Kratkii Ryssko-Mongoliskii slovari*. Kharbini（1914）が挙げられる。これに次いで，1917 年に海山編訳『蒙漢合璧五方元音』が北京で出版された。外国語対モンゴル語辞書は，見出し語が外国語であるため，モンゴル語は訳語となり，語彙の量や情報が少なかった。しかし，モンゴル語語彙の変化や発展，とりわけ，モンゴル語「近代語彙」の形成を考察する意味において，外国語対モンゴル語辞書は貴重な資料源となり，実際，分析の対象となるモンゴル語の語彙資料として重要である。そういう意味で，海山編訳『蒙漢合璧五方元音』は，1940 年までに作られた数少ない外国語対モンゴル語の辞書の一つで，漢蒙辞書，または漢蒙語彙集としては，1941 年に中央組織部辺区語文編訳委員会（南京）から出された『蒙訳名辞選輯』(Mongɣulčilan orčiɣulaɣsan ner-e üges-i songɣun quriyaɣsan bičig)[2] の編纂までの貴重な資料である。そのため，ここでは海山編訳『蒙漢合璧五方元音』をモンゴル語近代語彙の形成という視点から，見出し語の単語例を中心に，語彙の意味や概念の「近代性」について考察し，訳語としてのモンゴル語を分析する。

一. 『蒙漢合璧五方元音』というモンゴル語辞典

1.『蒙漢合璧五方元音』の基本構成

『蒙漢合璧五方元音』は，内モンゴルのジョスト盟ハラチン・ジャサグ親王旗（カラチン右旗）貝子ハイサン（海山）が 1912 年に外モンゴルのヒャーグト（キャフタ）の旅館で完成させ，1917 年に北京で出版した「漢蒙辞典」である。「代售処」として東安市場文華閣，琉璃廠鴻文閣，隆福寺聚珍堂の名称が掲載されているが，出版元は辞書自体に記されていない。モンゴル語名称は，Mongɣul kitad

1　本文は，東北大学東北アジア研究所で行なわれた国際ワークショップ「モンゴル語の辞書」(2011 年 2 月 12 日～13 日）において，「『蒙漢合璧五方元音』(1917 年）について」というタイトルで行なった研究発表の原稿にもとづくものである。

2　フフバートル（1997）102～115 ページ参照。

bičig-iyer qabsuruɣsan tabun jüg-ün aquu ayalɣu bičig である。中国の出版史に見られるいわゆる「蒙漢合璧」の出版物は基本的に「漢蒙対訳」の出版物を指す。そういう意味で本辞書も例外ではなく，名称は「蒙漢合璧～」であっても実際は「漢蒙辞典」である。『蒙漢合璧五方元音』自体は，清朝時代から民国初期まで中国全土で流行っていた『五方元音』という字典をモンゴル語に翻訳したものであるが，ハイサンは漢字の見出し語の下に一つか二つの単語例（基本的に 2 文字からなる単語）を補い，それをモンゴル語に翻訳している[3]。そのために，「字典」であった『五方元音』が『蒙漢合璧五方元音』では「辞典」になっていると言える。『五方元音』の著者は明朝末期から清朝初期に生きていた樊騰鳳（1601～1664）という人物であるが，海山はその 1880 年版に単語例を追加して編訳している。日本国内で本辞書の所蔵が確認されているのは，佛教大学図書館と東京大学大学院人文社会系研究科文学部図書室である。

写真資料 1－3　海山編訳『蒙漢合璧五方元音』の表紙，著者の肖像写真，版権証

『五方元音』は，北方官話をその音韻[4]によって分類した字引で，見出し語全体が 12 の韻母文字（天 tian，人 ren，龍 long，羊 yang，牛 niu，獒 ao，虎 hu，駝 tuo，蛇 she，馬 ma，豹 bao，地 di）と 20 の声母文字（梆 bang，斗 dou，竹 zhu，剪 jian，金 j(g)in，匏 pao，土 tu，虫 chong，鵲 que，橋 q(k)iao，木 mu，鳥 niao，石 shi，糸 si，火 huo，風 feng，雷 lei，日 ri，雲 yun，蛙 wa）の組み合わせ（反切法）により構成されている[5]。目次は，「読音訣」（平声，上声，去声，入声の説明），「韻目」（12 の韻母の説明），「廿字母」（20 の声母）及び 12 の韻母文字それぞれの 1 文字×20 声母文字からなり，その構成音に該当するすべての漢字（1 字語）が掲載されていた。『蒙漢合璧五方元音』では，まず，12 の韻母文字（それぞれの文字が一つの韻母を含む）と 20 の声母文字（それぞれの文字が一つの声母を含む）の発音をモンゴル文字で表記し，それにより，掲載された漢語の見出し語の発音がわかるようになっている。し

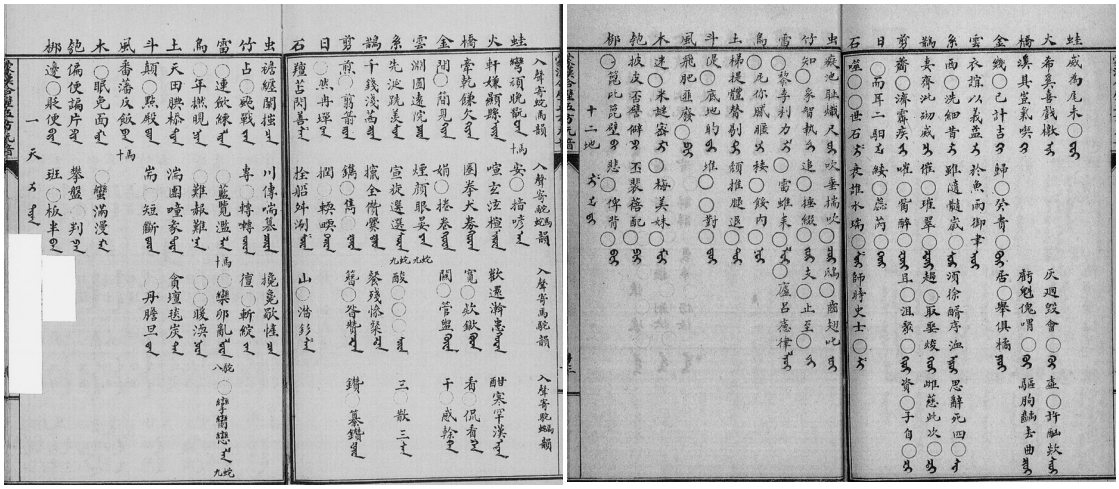
3　海山編訳『蒙漢合璧五方元音』の「序」で，著者は編訳に際して「各文字の下に蒙漢合璧の成語を一つ，二つ増補した」と述べている。

4　本文では音韻関連の問題を扱わないため，現代中国語（普通話）のピンインで表記する。

5　ここで「金」と「橋」の発音の表記については，モンゴル文字の表記に示された当時の中国語の音価を考慮に入れ，それぞれ j(g)in，q(k)iao と書いた。

かし，ハイサンが追加したと見られる漢語の例には発音が付されていない。それから，すべての漢語見出し語と漢語例をモンゴル語に翻訳している。本辞典は，縦 26.3 cm，横 15.0 cm，厚さ 2.5 cm で，ページ数は見開き 1 ページで，「百八十一」となっている。定価は「大洋二元五角」（二点五銀貨）であるが，10 冊以上購入したばあいは定価の 8 割になるということが本書の版権を示すページに記されている。

4　　5



写真資料 4－5　海山編訳『蒙漢合璧五方元音』の目次（最初と最後のページ）

2.『蒙漢合璧五方元音』の漢語見出し語の統計と翻訳の特徴

『蒙漢合璧五方元音』では，12 の韻母と「廿字母」（20 の声母）の組み合わせによる漢字一覧が「目次」として「一」から「十二」まである。ここでは，12 の韻母文字と 20 の声母文字を現代中国語のピンインで表記し，「韻」（韻母）と「字母」（声母）の組み合わせ一覧を表にまとめ，それぞれの文字（単語）数の統計を行なった（表 1 参照）。実際，ここに作成された表は当時の「中国語」（五方元音）の音節表にあたり，韻母と声母それぞれの組み合わせに見られる数字は特定の一音節に該当する文字（単語）数であるが，その構成は現代中国語の音節表に比べ，より包括的であるがゆえにより単純である。統計の結果，『蒙漢合璧五方元音』の漢語見出し語は合計 1438 である。これらの見出し語に伴う漢語の例は 5237 語で，これにはハイサンが増補した語例が含まれているとみられる。

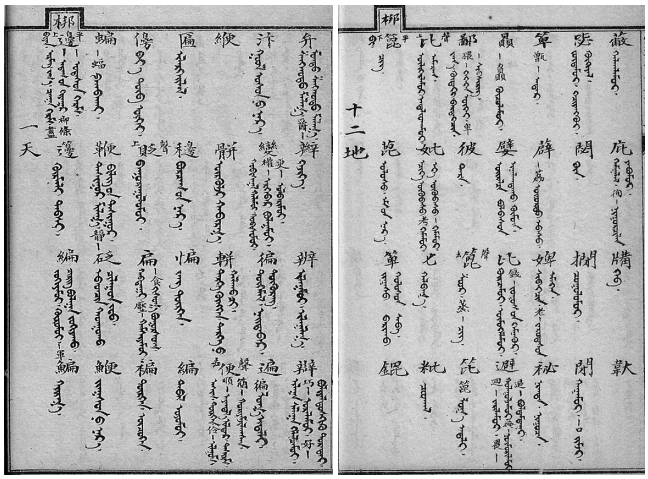
『蒙漢合璧五方元音』の翻訳の特徴としては，『五方元音』の一字に対し，二文字からなる語彙（成語）の例を増補して翻訳した点は前記のとおりである。それが本辞書の語彙を豊富にし，本辞書の目的でもあったモンゴル人の漢語学習に資するものである。しかし，著者が「序」でも触れているように，本辞書は，ヒャーグトというモンゴルの辺境の町で執筆され，参考図書や相談相手が不十分な環境の中での作業であった。一方では，1915 年に帰国したハイサンが北京でのんびり生活しながら本辞書の編訳を続け，それにあたり，漢文に精通する妻の馬氏がおおいに力をかしたという報告もある[6]。それにもかかわらず，この辞書には見出し語の漢語が翻訳されてないばあいや訳語が単純で，例えば，特定の魚について，単に「魚の名前」としか書いていないようなところが多く見られるなど，辞書全体の質については疑問を持たざるを得ない面がある。著者もその増補を後人に期待していた。

6　白玉崑（1984），161 頁。

表１　漢語見出し語の文字数（1438 字＝語）一覧表

韻母 / 声母音	天 tian	人 ren	龍 long	羊 yang	牛 niu	獒 ao	虎 hu	駝 tuo	蛇 she	馬 ma	豹 bao	地 di	合計
梆 bang	6	6	6	3	2	6	4	4	1	4	2	7	51
斗 dou	9	3	9	3	4	6	4	5	3	3	3	5	57
竹 zhu	9	9	8	6	6	6	4	2	5	6	4	10	75
剪 jian	11	7	8	6	6	6	4	6	6	1	3	13	77
金 j(g)in	12	11	12	8	6	6	4	8	2	8	9	11	97
匏 pao	9	6	7	4	2	7	4	5	1	5	3	9	62
土 tu	12	4	11	4	4	8	4	5	1	1	4	9	67
虫 chong	12	10	11	8	8	7	5	2	5	5	8	12	93
鵲 que	12	9	10	8	2	8	4	6	3	1	4	16	83
橋 q(k)iao	14	9	13	10	7	7	4	8	4	7	8	14	105
木 mu	6	5	6	4	5	6	3	4	3	4	3	7	56
鳥 niao	8	6	7	6	6	5	3	4	1	4	3	7	60
石 shi	11	10	7	7	6	7	5	3	6	5	5	11	83
糸 si	12	10	4	7	7	6	3	5	6	1	2	17	80
火 huo	16	12	16	12	7	8	5	10	2	9	9	13	119
風 feng	4	4	4	4	4	0	5	1	0	1	0	4	31
雷 lei	12	9	10	6	6	6	4	6	2	2	4	11	78
日 ri	6	6	4	3	2	2	4	1	4	1	0	7	40
雲 yun	9	8	8	4	4	4	0	1	5	5	4	10	62
蛙 wa	7	5	4	8	3	4	5	10	0	5	7	4	62
合　計	197	149	165	121	97	115	78	96	60	78	85	197	1438

6　7



写真資料６－７　海山編訳『蒙漢合璧五方元音』の翻訳の例

二.『蒙漢合璧五方元音』の研究

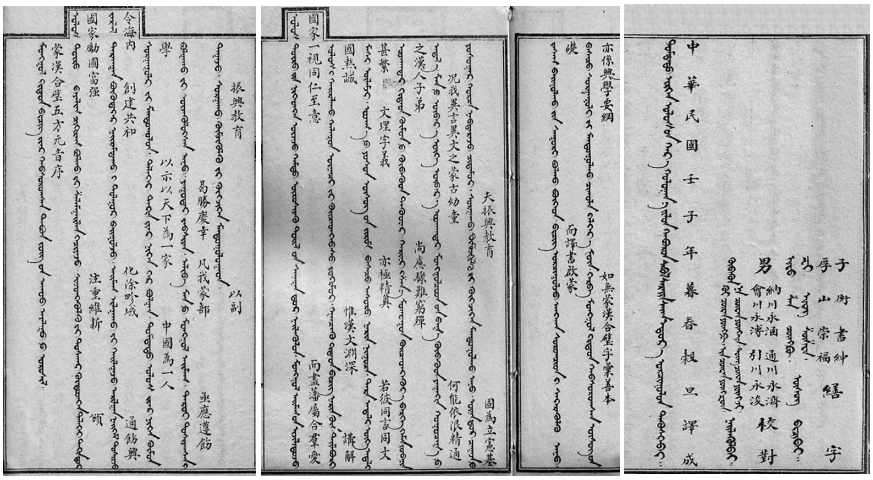
1.『蒙漢合璧五方元音』の編訳者海山という人物と時代背景

モンゴル近代史の視点からハイサンの人物を論じた研究は多く，この辞書がボグド・ハーン時代のモンゴルで翻訳されたという記述は見られるが，辞書についての詳しい研究はまだ行なわれていない。

ハイサン（海山，1857～1917）は，カラチン右旗の出身で，モンゴル語，中国語，満州語に精通する才能ある人物であった。同旗の武官メーレンだった彼は1891年に「金丹道」となのる漢人入植民の秘密組織による武装蜂起を鎮圧した関係で，旗内での人間関係が危機的な状況になり，その報復などを恐れ，1902年からハルビンのロシア領事館内で四年間にわたる避難生活をした。1907年に外モンゴルに移住し，1911年のモンゴル独立当時は，ボグド・ハーン政権の内務次官補を務めた。しかし，1915年に袁世凱の指示で，グンセンノロブ蒙藏院総裁の説得により中国にもどり，北洋政府のもとで蒙藏事務局の総裁を務めたが，1917年に病死した。

フィンランドの東洋学者ラムステッドによれば，ハイサンは「顔にあばたがある，大柄の醜い南モンゴル人」で，「変わった人物」であった[7]。「数年間ハルビンで最初のモンゴル語の新聞を発行し，モンゴルの歴史に関する論文をモンゴル語で書いたこともある」と，ラムステッドは彼の学識に驚いたように書いている。ラムステッドがウルガ（現ウランバートル）でモンゴル語の読み書きの師として雇った年配のラマ僧が，「古いモンゴル語で書かれた文献についての知識があり，多少なりとも読むことのできる数少ない貴重な一人であった」ので，モンゴル文字で新聞を発行し，論文を書いた人なら当時としては「変わった」モンゴル人だったに違いない。ここに取り上げられた「最初のモンゴル語の新聞」とは，1909年5月に雑誌として創刊され，1912年9月から新聞になった（Mongɣul-un sonin bičig）を指すものであるため，ハイサンが編集に加わったということについては再考の余地がある。しかし，ハイサンが当時のモンゴルでは優れた学識者であったことは，外藩モンゴル出身者の科挙試験の受験を認めない清朝の制度に対し，漢人と結婚して漢籍を取ってまで対応したことからも明らかであるが，科挙制度の廃止により，ハイサンの夢は実現しなかった。しかし，『蒙漢合璧五方元音』の完成は彼が「文人」として一つの夢を実現させ，一つの役目を果たせたということにもなる。

8　9　10



写真資料8－10　海山編訳『蒙漢合璧五方元音』における著者の「序」の一部分

7　グスタフ・ラムステッド，荒牧和子訳（1992），231頁。

2.『蒙漢合璧五方元音』のモンゴル語語彙の「近代性」

モンゴル語語彙の近代性についての考え方及びモンゴル語近代語彙弁別の具体的な基準などについては，報告者の先行研究[8]にゆずることにしたい。モンゴル語近代語彙の研究では，モンゴル語近代語彙の形成に強い影響を及ぼしたと考えるのに値する十分な語彙資料を外国語対モンゴル語辞書から引き出すことができないため，モンゴル語におけるこの分野の研究は，20 世紀初期から発行されはじめたモンゴル語定期刊行物の語彙を頼りにせざるを得ない。そのために，ここでは，1908 年 4 月に吉林調査局から創刊され，民国初期まで発行が続けられた月刊誌である蒙漢合璧『蒙話報』(Mongɣul üsüg-ün bodural) から漢字語彙 933 語を見出し語として抽出し，そのモンゴル語訳の分析を行なっている。

ここでまず『蒙漢合璧五方元音』の見出し語の中国語が編訳者のハイサンに「近代的な意味」で理解されていたかどうかが重要なポイントとなる。そこで，同じ見出し語を中国語の近代的な意味に合わせて訳さなければならなかった『蒙話報』誌における見出し語とそのモンゴル語訳とを比較してみたい。『蒙話報』のモンゴル語訳語にもそれが果たせていない例が数多くあり，むしろ，近代的な意味で訳せなかった語彙がほとんどであった。両者は発行の時代が近いのと，ハイサン自身がある意味ではモンゴルの政治や文化の近代化を自ら開いてきた人物の一人であるため，この比較にはそれなりの意義があると考え，この辞書に登場したモンゴル語の近代語彙，したがって，中国語の近代語彙を確認するうえでも一つの目安になるのではないかと考える。

『蒙漢合璧五方元音』の見出し語を『蒙話報』の見出し語である中国語の単語と比較してみた結果，両者の見出し語が一致するのは次の 32 語だけである。ここでは両者の訳語をモンゴル文字ローマ字転写によって表記する。

見出し語	『蒙漢合璧五方元音』	『蒙話報』	発行期[号]，ページ数，行数（通しページ数がないため，見開き 1 ページと数える）
会議	quubi neyilekü	1 qamtu jöblekü	3-22-2
		2 neyilejü jöbleldükü	25-31-5
機会	tuq-a	1 sayin učar	1-22-14
		2 tokiyalduqu čaɣ	4-13-7
		3 tokiyalduɣsan sayin yabudal	7-8-2
期限	quɣučiɣ-a	1 kemjiy-e	5-10-8
		2 quɣučiɣ-a	12-28-2
		3 dürim quɣučiɣ-a	25-5-9
教授	fu-yin surɣaɣči tüsimel	surɣaɣči	25-14-14
研究	naribčilaqu	1 sigümjilekü	1-27-10
		2 kelelčikü	22-2-8
合同	neyilegülkü ger-e	batulaɣsan bičig	3-20-5
合併	kemjiy-e	qamtuddaqu	23-2-8
候補	nöküjü talbiqu-yi küliyekü	küliyejü nökübürilekü	23-5-6

8 フフバートル（2006）参照。ここでも『蒙漢合璧五方元音』の語彙について統計を出しているが，本稿は，それを見直し，『蒙漢合璧五方元音』について全体にわたって考察するものである。

産業	körüngge	1 ger tariy-a	1-30-6
		2 aju törükü yabudal	6-39-3
		3 adal sudal	6-39-4
自然	öbesün, talbiɣu	1 öberiyen toɣtuɣsan	1-40-2
		2 öbesüben	23-54-13
新鮮	sonin sebegün	önggetei	23-22-5
習慣	idegesikü, dasjai	jang aɣali	4-35-7
章程	dürim kemjiy-e	1 quuli dürim	2-2-4
		2 yosu dürim	4-33-11
信息	medege	1 kereg bükün	2-24-11
		2 čimege	19-2-5
商量	jöblekü	kelelčikü	1-34-5
責任	tušiyal	1 erke tušiyal	2-7-3
		2 erke	2-51-8
		3 tušiyal	6-9-4
		4 tusaqayitu yabudal	10-41-5
		5 tusiyal	17-20-12
土地	orun ɣajar-un ejen	1 ɣajar orun	1-19-8
		2 ɣajar sirui	15-23-7
太平	engke	engke tübsin	25-20-9
地方	ɣajar orun	ɣajar	1-3-10
偵探	tursiqu	surbuljilan bayičaɣaqu	18-34-4
討論	bayičaɣan sigümjilekü	asaɣun sigümjilekü	25-5-8
内閣	dotuɣudu yamun, obuɣ	1 dotuɣudu yamun	2-6-1
		2 dotuɣadu asar	12-25-7
博士	surulčaɣsan tüsimel	1 büsi	17-43-11
		2 ilɣaɣči tüsimel	22-64-11
普通	neyiteber, qotala, bükü	neyiteber medekü	4-15-13
風俗	jang aɣali, jang surtal, keb qauli	1 keb qauli	1-6-5
		2 yosu dürim	4-35-7
辨理	sidgejegekü	sidgekü	1-1-3
朋友	nökür qani	nökür qani	25-56-10
報復	qariɣulqu	qariɣulqu	4-13-7
貿易	qudulduɣ-a araljiqu	qudalduɣ-a kikü	20-2-8
利益	tusa	1 ed asiɣ, tustai yabudal	1-4-9, 10
		2 sayin yabudal	1-6-6
		3 tusa	1-25-5
		4 asiɣ tusa	5-1-16
利息	kölüsü	türiyesün	1-30-8
利害	ayimsiɣtai	asiɣ qour	6-16-12

次の二文字からなる単語は，多少なり近代性が認められるものと考えられ，『蒙漢合璧五方元音』から抽出された語彙であるが，『蒙話報』にはこれに該当する漢語が存在しない。合計 24 語である。しかし，そのモンゴル語訳はいずれも中国領内における現代モンゴル語の訳と異なるもので，モンゴル語においては近代性が認められない。

遺言 geriyesülekü，閲兵 čiɣulɣan，漢話 kidadar kelelčekü，元旦 čaɣalaqu edür，器械 jebseg，機械 masi，激烈 gegyegün，告示 uqaɣulun jarlaqu bičig，誠意 sanaɣan-i ünen bolɣaqu，助教 tusalan surɣaɣči，批判 čoɣuluqu，記念 toɣ-a，生員 oyutan，侵害 šoɣlaqu，鍛錬 ulayidɣaqu，図書 bičig-ün temdeg，任意 durabar，排列 jergeleku，富裕 k(g)ürtei，文章 udq-a uyangɣ-a，謀略 boduly-a，模索 temtürkilekü nuqulaqu，約束 quriyamjilaqu，理事 jarɣu sigükü

ここでは，さらに，上記漢語語彙のモンゴル語訳が『蒙漢合璧五方元音』と『蒙話報』の両者間でどれだけ一致しているかを調べてみた。その結果は次の通りである。

① 見出し語が一致しない語彙（24 語）：閲兵，元旦，漢話，器械，機械，記念，激烈，告示，助教，侵害，誠意，生員，鍛錬，図書，任意，排列，批判，富裕，文章，謀略，模索，約束，遺言，理事
② 見出し語が一致する語彙（32 語）：会議，合併，機会，期限，教授，研究，合同，候補，産業，自然，習慣，章程，商量，新鮮，信息，責任，太平，地方，偵探，討論，土地，内閣，博士，風俗，普通，辨理，貿易，報復，朋友，利益，利害，利息
③ 訳語が完全不一致の語彙（16 語）：会議，合併，機会，研究，合同，候補，産業，習慣，新鮮，商量，信息，偵探，討論，土地，利害，利息
④ 訳語が一部一致する語彙（13 語）：期限，教授，自然，章程，責任，太平，地方，博士，風俗，普通，辨理，貿易，利益
⑤ 訳語が完全一致する語彙（8 語）：期限，教授，責任，地方，内閣，風俗，報復，朋友

表 2 『蒙漢合璧五方元音』（1917）と『蒙話報』誌（1908～13）との語彙比較表

両者の語彙の一致率	語彙数	『蒙話報』誌の近代語彙との一致率
① 見出し語が一致しない語彙	24	2.6%
② 見出し語が一致する語彙	32	3.4%
③ 訳語が完全不一致の語彙	16（のべ）	1.7%
④ 訳語が一部一致する語彙	13（のべ）	1.4%
⑤ 訳語が完全一致する語彙	8	0.9%

むすび

海山編訳『蒙漢合璧五方元音』のモンゴル語語彙については，清朝時代に出版されたモンゴル語関連の諸辞書，とりわけ，『御製五體清文鑑』のモンゴル語語彙と比較し，詳しいデータを出してみることが必要であろう。しかし，モンゴル語近代語彙の研究という意味においては，同時代に刊行された中国語対モンゴル語辞書，また，語彙集との比較が望ましいが，うえに見てきたように，現時点で

は，清朝末期，民国初期という意味において同時代の蒙漢合璧定期刊行物のモンゴル語語彙と比較するしかない。両者は出版物自体の形態が大きく異なり，その内容と規模にも大きな違いがあるため，登場するモンゴル語語彙の内容や量にも大きな違いが認められる。こうした限られた条件での両者の比較により，『蒙漢合璧五方元音』のモンゴル語語彙について，ここでは次のことが述べられると考える。

海山編訳『蒙漢合璧五方元音』は，『蒙話報』誌より刊行の時期が約10年遅いが，中国語の古い辞書の翻訳であるため，モンゴル語の訳語はより古い形をとっている。たとえば，中国語では名詞であることも可能な単語を単に古い形での動詞として訳していること，それに，モンゴル語の訳語に工夫が少ないことから，中国語を近代的な意味で翻訳する意識があまり強くなかったと言えるのではないかと考えられる。それがその辞書の翻訳という意味では正しいことかもしれないが，ハイサンというモンゴル民族の近代化の重要なプロセスに加わった文人が編訳した辞書にしては，モンゴル語の訳語が古く，本辞書からは期待していたほどモンゴル語近代語彙の創出を見出すことができなかった。

付録: 海山編訳『蒙漢合璧五方元音』「序文」のモンゴル語近代語彙

一、喀喇沁親王（Qaračin čin wang）の「序文」の語彙

学問 surulɣ-a asaɣulɣ-a，語言 üge sigümjilel，文字 üsüg，中国 dumdadu ulus，音韻 ayalaɣu daɣun，字体 üsüg-ün dürsü，文章 udq-a uyangɣ-a，字母 üsüg，成語 toɣtaɣsan üge，初学 angq-a surqu

二、卓索図盟西土黙特旗扎薩克郡王棍布扎布（Jusutu-yin čiɣulɣan baraɣun tümed qosiɣun-u jasaɣ giyün wang ɣombujab）の「序文」の語彙

漢文 kitad bičig，蒙文 mongɣul udq-a，書籍 bičig，字彙 üsüg-ün čuɣlaɣ-a，参考 kinan bayičaɣaqu，字義 üsüg-ün jirum，文理 udq-a-u yosun，国家 ulus törü，興学 surɣaɣuli-yi manduɣulqu

三、哲里木盟賓図親王棍楚克蘇隆（Jirim-ün čiɣulɣan-u bintu čin wang ɣončuɣsürüng）の「序文」の語彙

読書 bičig ungsiqu，識字 üsüg-i tamiqu，音韻 udq-a ayalɣu，字典 üsüg-ün qauli，文人 bičig-ün kümün，学士 surqu arad，兼通 bürin-e nebterekü，蒙文 mongɣul bičig

四、内蒙古卓索図盟喀喇沁扎薩克親王旗海山（Dotuɣadu mongɣul-un jusutu-yin čiɣulɣan qaračin-u jasaɣ čin wang-un qosiɣun-u qayišan）の「序文」の語彙

国家 ulus törü，維新 sinedgegülkü，創建 tulɣur bayiɣulqu，共和 bügüdeger nayiramdaqu，振興 kögjigen manduɣulqu，教育 surɣaqu kümüjigülkü，文理 udq-a-u yosun，字義 üsüg-ün jirum，精通 qurča nebterekü，基礎 saɣuri，要綱 čiqula kelkey-e，啓廸 sekeregülün jiluɣuduqu，速成 qurdun tegüsgekü，祖国 ijaɣur ulus，興学 surɣaɣuli-yi manduɣulqu，普及 neyigem kürügülkü，義務 jirum-un yabudal，異域 alus ɣajar，旅館 ayančin-u baɣurči，書籍 bičig qara，参考 kinan bayičaɣaqu，同志 adali sedgilgeten，校正 neyilegülün jalaraɣulqu

参考文献

『方言類釋』（1778）弘文閣　韓国　光明市　1985年

『蒙語類解』（18世紀）ソウル大学校古典刊行会　1971年

『蒙語老乞大』（18世紀）西江大学校人文科学研究所　1983年

J. E. Kowalewski（1844）. Dictionnaire mongol-russe-francais. Kasan.

『蒙文總彙』（1891）. Mongɣul ügen-ü bügüde quraqaɣsan bičig（一，二）光緒十七年

『欽定蒙文彙書』(1891). Mongɣul-un üsüg-ün quriyaɣsan bičig（一，二）光緒十七年
『御製五體清文鑑』(1957). Qaɣan-u bičigsen tabun jüil-ün üsüg-iyer qabsuruɣsan manju ügen-ü toli bičig（一，二，三）(清朝乾隆年間) 民族出版社　北京
Temgetü（1956). Mongɣul utq-a-yin jüil qubiyaɣsan toli bičig（蒙文書社編『蒙文分類辞典』1926 年 北京）民族出版社
栗林均　呼日勒巴特尓（2006)『「御製満珠蒙古漢字三合切音清文鑑」モンゴル語配列対照語彙』(東北アジア研究センター叢書　第 20 号）東北大学東北アジア研究センター
栗林均編（2010)『「蒙文総彙」――モンゴル語ローマ字転写配列――』(東北アジア研究センター叢書　第 37 号）東北大学東北アジア研究センター
中見立夫（1976)「ハイサンとオタイ――ボグド・ハーン政権下における南モンゴル人」『東洋学報』第五七巻第一・二号
白玉崑（1984)「海山」中国人民政治協商会議内蒙古自治区委員会文史資料研究委員会編『内蒙古文史資料』第十四輯
グスタフ・ラムステッド，荒牧和子訳（1992)『七回の東方旅行』中央公論社
フフバートル（1995)「モンゴル語定期刊行物史にみる言語問題――モンゴル語発展史及び内モンゴル言語問題の一端」(一橋大学大学院社会学研究科　博士課程後期単位修得論文）
フフバートル（1997)「漢語の影響下におけるモンゴル語近代語彙の形成――中国領内のモンゴル語定期刊行物発達史に沿って――」一橋大学大学院社会学研究科提出博士学位論文
N. Altanša（2006). “Orčin odu üy-e-yin mongɣul ündüsüten-ü čuutu kümüs-ün namtar” Öbür mongɣul-un arad-un keble-ün qoriy-a.
ボルジギン・ブレンサイン（2007)「ハラチン・トメド移民と近現代モンゴル社会――モンゴルジンのハイラトド氏を事例に――」モンゴル研究所編『近現代内モンゴル東部の変容』(アジア地域文化学叢書 8）雄山閣
フフバートル（2005～2008)「モンゴル語近代語彙登場の母体――『蒙話報』誌（一～六)」『学苑』775 号（2005a)，779 号（2005b)，780 号（2005c)，781 号（2005d)，787 号（2006)，816 号（2008)

後記: 本辞書を上海の古本屋で手に入れ，筆者に譲ってくださった，当時総合地球環境学研究所助手であった中国史研究者の加藤雄三氏にお礼を申し上げたい。

（フフバートル　　現代教養学科）